

## ベトナム語の“bởi”受動文の客観性

グエン・ティ・ミン

キーワード：受動文、呼称表現、主観的表現、客観的表現、受益表現

### 1. はじめに

従来のベトナム語の研究では、次の三つのタイプの受動文が指摘されてきた。

A) “bị/được”受動文

主語 + bị/được + 旧主語 + 動詞

ラレル

B) “bởi”受動文

主語 + bị/được + 動詞 + bởi + 旧主語

ラレル

BY

C) “do”受動文

主語 + do + 旧主語 + 動詞

ニヨッテ

多くの研究(村上 1997, Thanh Ha 1999, 谷守 1999, Diep Quang Ban 2005, Thanh Van 2005, 川口 2009 等)は A)のタイプの受動文をベトナム語の受動文の典型的な文型だと認めている。このタイプは、受動態マーカ―とされている“bị”あるいは“được”が現れているが、旧主語マーカ―が現れないという特徴がある。本稿では、便宜上、このタイプの受動文を“bị/được”受動文と名付ける。

(1) a. Mẹ mắng tôi.

母 叱る 私

(母は私を叱った。)<sup>1)</sup>

b. Tôi bị mẹ mắng.

私 PASS<sup>2)</sup> 母 叱る

(私は母に叱られた。)

<sup>1)</sup> 本稿では、例文の日本語訳は直訳であり、日本語として不自然な場合もある。

<sup>2)</sup> 受動態マーカ―

また、B) の受動文は “bởi”受動文である。“bởi”受動文はタイプ A) とタイプ C)<sup>3</sup>と異なり、受動態マーカーである “bị/được”も旧主語マーカーも現れる。旧主語は前置詞 “bởi” でマークされる。

- (2) a. Công ty EPC thiết kế mẫu biệt thự này.  
会社 EPC 設計 モデル 別荘 この  
(EPC 会社はこの別荘のモデルを設計した。)
- b. Mẫu biệt thự này được thiết kế bởi công ty EPC.  
モデル 別荘 この PASS 設計する BY<sup>4</sup> 会社 EPC  
(この別荘のモデルは EPC 建設会社によって設計された。)

この “bởi” 受動文は、統語的に A) タイプの “bị/được” 受動文と二つの相違点を持っている。一つは前述のとおり、 “bị/được” 受動文では、旧主語マーカーが現れないが、“bởi” 受動文では、旧主語が現れる。もう一つは語順である。“bị/được” 受動文では、旧主語が受動態マーカーと動詞の間に現れるが、“bởi” 受動文では、動詞が受動態マーカーの直後に現れる。

C) のような文型はあまり言及されていない。この受動文は受動態マーカーが現れないが、以下の (3b) のように、旧主語マーカーである前置詞 “do” が現れている。便宜上、このタイプを “do” 受動文と呼ぶ。

- (3) a. Bố tôi xây ngôi nhà này.  
父 私 建てる CL 家 この  
(私の父はこの家を建てた。)
- b. Ngôi nhà này do bố tôi xây.  
CL 家 この によって 父 私 建てる  
(この家は私の父によって建てられた。)

但し、本稿では、“do” 受動文に言及しないため、ベトナム語の受動文を概観するために、紹介にとどめる。

従来のベトナム語の受動文の研究 (Panfilov1993, Nguyen Hong Con & Bui Thi Dien 2004 等) では、B) タイプである “bởi” 受動文はベトナム語の受動文の一部と位置づけられているが、どのような統語的・意味的特徴を持っているのか、他のタイプの受動文とどのような相違点を持っているのか、まだ明らかにされていない。“bởi” 受動文の統語的・意味的

<sup>3</sup> 下記では詳細に説明する

<sup>4</sup> 旧主語マーカーであるが、日本語の「二」「ニヨッテ」に一致しないため、便宜上、BY とグロスを付ける。

特徴を明らかにすることを旨として、本稿では、“bởi”受動文の特徴の中でも、“bởi”受動文の客観性を明らかにする。

## 2. 問題の所在

“bởi”受動文の成立には、次の制約がある。同じ意味を表す名詞であっても、“bởi”受動文が成り立つ場合と、成り立たない場合がある。

- (4) a. Cảnh sát đã bắt Nguyễn Thị Hoa.  
警察 ASP<sup>5</sup> 逮捕 ゲン・ティ・ホア  
(警察はゲン・ティ・ホアを逮捕した。)
- b. Nguyễn Thị Hoa đã bị bắt bởi cảnh sát.  
ゲン・ティ・ホア ASP PASS 逮捕 BY 警察  
(ゲン・ティ・ホアは警察に逮捕された。)
- (5) a. Cảnh sát đã bắt cái Hoa.  
警察 ASP 逮捕する PREF<sup>6</sup> ホア  
(警察はホアちゃんを逮捕した。)
- b. \*Cái Hoa đã bị bắt bởi cảnh sát.  
PREF ホア ASP PASS 逮捕 BY 警察  
(ホアちゃんは警察に逮捕された。)

(4) 及び (5) では、目的語は同じ人物である「ホア」を指示する。しかし、(4) では、フルネーム「ゲン・ティ・ホア」で指示されるが、(5) では、「ホアちゃん」という表現で指示される。(5) では、日本語の「～ちゃん」に相当するベトナム語の接頭辞を通じて、話し手はその人物への親しい感情を表す。これに対して、(4) では、フルネームという表現で、話し手はその人物に対して、距離を置き、何の感情も表さない。本稿では、話し手の感情を含む(5)のような表現を主観的な表現、話し手の感情を含まない(4)のような表現を客観的表現とする。このように、“bởi”受動文の成立は呼称表現が主観的であるか客観的であるかに左右される。本稿では、どのような呼称表現が“bởi”受動文になりえるのかを明らかにした上で、“bởi”受動文の客観性を明らかにする。

また、＜授受動詞＞および三項の＜思考・発話の動詞＞から成り立つ“bởi”受動文の成立には、主語と間接目的語が共起しないという制約がある。

- (6) a. Giáo viên thông báo cho sinh viên về thủ tục nhập học.  
先生 通知する に 学生 について 手続き 入学

<sup>5</sup> 過去のアスペクト形式

<sup>6</sup> 接頭辞

(先生は学生に入学の手続きを通知した。)

b. Thủ tục nhập học được thông báo bởi giáo viên.

手続き 入学 PASS 通知する BY 先生

(入学の手続きは先生によって通知された。)

c. \* Thủ tục nhập học được thông báo cho sinh viên bởi giáo viên.

手続き 入学 PASS 通知する に 学生 BY 先生

(入学の手続きは先生によって学生に通知された。)

d. \* Sinh viên được thông báo thủ tục nhập học bởi giáo viên.

学生 PASS 通知する 手続き 入学 BY 先生

(学生は先生に入学の手続きを通知された。)

本稿では、なぜこの制約が生じるのか、“bởi”受動文の客観性にどのように関連するのかを明らかにする。

### 3. ベトナム語の呼称表現

上述したように、呼称表現が主観的であるか客観的であるかの違いは、“bởi”受動文の成立に密接に関わるため、以下では、ベトナム語の呼称表現の主観性を考察する。

#### 3.1 先行研究

ベトナム語の呼称表現に関する研究はいくつかある。代表的なものは Vu Minh Hien (2008) 及び Vu Thi Thu Thao (2009) である。以下では、これらの研究を概観する。Vu Minh Hien (2008) はベトナム語の親族名詞の虚構的な呼びかけ用法、言い換えれば親族名詞の親族外の呼称表現の用法を明らかにした。また、Vu Thi Thu Thao (2009) は親族内・親族外の会話における自称詞・対称詞について詳細に記述した。Vu Thi Thu Thao (2009) は親族名詞以外の人称代名詞についても言及している。いずれの研究も、ある呼称表現を通じて、話し手がその人物に対してどのような態度を含むのかという、感情表現としての用法を中心に考察している。つまり、Vu Minh Hien (2008) も、Vu Thi Thu Thao (2009) も、感情表現である呼称表現を中心に記述している。

親族名詞、人称代名詞には、このような感情を表す主観的表現だけでなく、これと対立する客観的表現がある。しかし、具体的に、客観的表現がどのような表現であるのかは、先行研究ではまだ明らかにされていない。また、人称代名詞の代わりに使用される固有名詞、地位・役割・職業を表す名詞にも、客観的表現と主観的表現の対立がある。以下では、主観的呼称表現・客観的呼称表現の体系を明らかにする。

#### 3.2 主観的表現と客観的表現の対立

##### 3.2.1 人称代名詞

人称代名詞には、Vu Thi Thu Thao (2009) が述べた一人称である “tôi” (私) “tao” (僕) と二人称である “mày” (君) 以外に、単数を表す一人称として、親しい関係を表す表現 “tớ” (僕、俺)、二人称として、感情を表さない表現である “bạn” (あなた) がある。また、複数を表すためには、これらの単数の呼称表現の前に接頭辞 “chung” (達) “cac” (達) が付く。接頭辞が付いても、以上の表現の元の客観性・主観性は保持される。一人称として、“chung toi” (私達) という客観的表現と、“chung tớ” (僕達) “chung tao” (俺達) という主観的表現がある。二人称として、“cac ban” (あなた達) という客観的表現と、“chung may” (君たち) という主観的表現がある。

そして、三人称代名詞として、ベトナム語には、“họ” (彼ら) という客観的表現と、“chung no” (彼ら) “no” (彼) という主観的表現がある。“họ” (彼ら) は感情を含まない表現であるが、“chung no” (彼ら)、“no” (彼) は親しい関係あるいは軽蔑した感情を表す表現である。つまり、人称詞には主観的表現と客観的表現の対立がある。その対立は以下の表 1 のようにまとめられる。

【表 1】人称代名詞の客観性

	客観的表現	主観的表現
一人称	“tôi”(私)、“chung toi” (私達)	“tớ” (僕)、“tao” (俺)、“chung tớ” (僕達) “chung tao” (俺達)
二人称	“bạn” (あなた)	“mày” (君)、“chung may” (君たち)
三人称	“họ” (彼ら)	“chung no” (彼ら)、“no” (彼)

### 3.2.2 親族名詞

#### 3.2.2.1 親族関係を表す呼称表現として

親族関係を表す親族名詞には親族関係を表す単純語と、親族関係を表さない接頭辞が付いた複合語がある。単純語は親族内の会話に限り、一人称・二人称として、使用されるが、接頭辞が付いた複合語は三人称代名詞としてしか使用されない。

接頭辞が付いた複合語は接頭辞によって、主観的表現と客観的表現に分けられる。

まず、指示人物に対して主観的な感情を表す接頭辞が付いた親族名詞である。この呼称表現は主観的表現である。

「接頭辞＋親族名詞」

thằng anh (お兄さん) = thằng (君) + anh (兄)

mụ vợ (奥さん) = mụ<sup>7</sup> (接頭辞) + vợ (妻)

lão chồng (ご主人) = lão<sup>8</sup> (接頭辞) + chồng (主人)

<sup>7</sup> 悪魔のように怖い女性

<sup>8</sup> 馬鹿な男性

これらの「接頭辞＋名詞」は全て呼び捨て表現である。“thằng”は男性である相手を見下す呼称表現である。これは通常自分の息子、夫のために使用されるくだけた表現である。また、“mụ”は女性である相手、“lão”は男性である相手に対して、嫌う態度を表す。

これ以外に、親族名詞から派生した接頭辞がある。つまり、「親族名詞＋親族名詞」の構成を有する名詞である。

「親族名詞＋親族名詞」

ông chồng (ご主人) = ông (祖父) + chồng (主人)

bà mẹ (母親) = bà (祖母) + mẹ (母)

con vợ (奥さん) = con (子供) + vợ (妻)

con chị (お姉さん) = con (子供) + chị (姉)

これらの名詞は二つに分類される。“bà mẹ” (母親) のような名詞では、接頭辞 “bà” (祖母) が単純語「母」に対して、親族体系の中で、上位であることを表す (以下では、便宜上、上位の親族名詞と呼ぶ)。これらの表現は発話者の感情を表さないため、客観的表現である。

一方、“con vợ” (奥さん) では、接頭辞 “con” (子) が “vợ” (妻) に対して、下位であることを表す。これも呼び捨て表現になる。この表現は発話者の軽蔑した態度を表すため、主観的表現である。

そのため、上位の親族名詞は事実を述べる客観的表現に使用されるが、下位の親族名詞は使用されない。

(7) a. Ở Nhật Bản, các bà vợ thường làm công việc nội trợ.

で 日本 PL<sup>9</sup> 祖母 妻 よく する 仕事 主婦

(日本では、奥さん達はよく主婦をしている。)

b. #<sup>10</sup> Ở Nhật Bản, các con vợ thường làm công việc nội trợ.

で 日本 PL 子 妻 よく する 仕事 主婦

(日本では、妻達はよく主婦をしている。)

(7) は日本の「奥さん達」に関する事実を表す客観的な表現であるため、発話者が自分の感情を表すことはできない。“con vợ” (奥さん) は「奥さん」に対して軽蔑した態度を表す下位親族名詞であるため、(7b) は不適格になる。

<sup>9</sup> 複数

<sup>10</sup> 文体的に不適格であることを示す。

このように、親族関係を表す親族名詞は、上位親族名詞は客観的表現であり、下位親族名詞と接頭辞が付いた親族名詞は主観的表現である。

### 3.2.2.2 虚構的表現としての親族名詞

虚構的表現としての親族名詞は会話において、一人称、二人称として使用される。これらの呼称表現は言及されている人物に対して、親族メンバー同士ののような感情を表す<sup>11</sup>ため、主観的表現であると言える。

三人称として使用される場合、指示詞が付いた表現と、指示詞が付かない表現がある。指示詞が付いた表現は主観的表現であり、指示詞が付かない表現は客観的表現である。

- (8) Giáo sư Trần Đại Nghĩa tên thật là Phạm Quang Lễ.  
教授 チャン・ダイ・ギア 本名 COP ファム・クアン・レー  
Ông sinh ra ở Vĩnh Long.  
祖父 生まれる 出すで ヴィン・ロン  
(チャン・ダイ・ギア教授の本名はファム・クアン・レーである。彼はヴィン・ロンで生まれた。)

(8) の例では、“ông” (お爺さん) は前文脈に言及された「チャン・ダイ・ギア」という人物を指示する。この表現は前文脈で言及された人物の年齢に応じて、重複をさけるために、使用される。この表現は発話者が言及されている人物と何等かの関係を持っていないこと、自分の領域に属さないことを示す客観的な表現である。

これに対して、次の例では、発話者は指示人物と何等かの関係を持っているため、自分の領域に属することを示す“ây”指示詞が用いられる。

- (9) A: Bác trai đi đâu từ lúc trời còn tờ mờ đất thế?  
伯父 男 行くどこ から 時 空 まだ ほの暗い 土 PRT<sup>12</sup>  
(伯父さんはほの暗い中をどこへ行ったの?)  
B: (略) Ây dà, ông ấy đã năm tám tuổi rồi.  
ええとね、祖父 あの ASP 58 才 PRF<sup>13</sup>  
(ええとね、彼はもう 58 才だもん!)

(ĐNM<sup>14</sup>)

<sup>11</sup> Vu Minh Hien (2008) を参照されたい。

<sup>12</sup> 文末助詞

<sup>13</sup> 完了マーカ

<sup>14</sup> ĐNM: “ÔnggiáoĐô”(ド先生), ĐỒ NHẬT MINH (ドー・ニャ・ト・ミン)  
<http://www.nhandan.com.vn/cuoituan/van-nghe/truyen-ngan/item/738802.html>

(9) は近所の人と物語の主人公である「先生」の奥さんの会話である。近所の人はその主人公を自分の伯父のように扱っているため、「伯父さん」という虚構的表現で指示する。「奥さん」は自分の「夫」を“ông ấy”（祖父＋指示詞）という表現で指示し、指示人物と何らかの関係を示す。“ấy”という指示詞<sup>15</sup>は“ngày ấy”（その日）“thời ấy”（その時代）のように記憶に残っていることを回顧する場合に使用される。この指示詞で、発話者は指示人物が自分の領域に属することを表すため、主観的な表現であると言える。

つまり、虚構的表現としての親族名詞は三人称として使用される指示詞を含まない表現のみが客観的表現であり、指示詞を含む表現は主観的表現である。

### 3.2.3 固有名詞

ベトナム語の呼称表現においては、固有名詞が次のように使用される。まず、発話者が指示人物と同じ年齢あるいは年上であり、近親関係を持っている場合に、指示人物の名前のみ或いは「接頭辞＋名前」で呼称する。接頭辞が親族名詞及び“cái”（ちゃん）“thằng”（君）であるため、「接頭辞＋名前」の構成を有する呼称表現は発話者の主観的な態度を含む。これに対して、発話者が指示人物と疎遠な関係を表したい場合に、フルネーム「名＋ミドルネーム＋名前」で呼称する。「フルネーム」呼称表現は客観的表現である。

### 3.2.4 地位・役割・職業を表す名詞

ベトナム語において、職名は人称代名詞の代わりに使用される。地位・職業・役割の名詞は接頭辞が付く表現と付かない表現の対立がある。接頭辞が付く表現は主観的表現であり、接頭辞が付かない表現は客観的表現である。接頭辞＋職業・地位・役割の名詞において、接頭辞の多くは親族名詞である。親族名詞以外に、発話者の態度を表す語、“tay”（手）“lão”（老人）“thằng”（君）などが接頭辞として使用される。この呼称表現に対立するのは、接頭辞を含まない「職業・地位・役割」という呼称表現である。接頭辞が付かない職業・地位・役割の名詞は客観的表現である。

### 3.2.5 呼称表現に関するまとめ

つまり、ベトナム語の呼称表現は全て客観的表現と主観的表現の対立がある。表2はその対立を表すものである。

【表2】呼称表現の体系と客観性

客観的表現	主観的表現
固有名詞（フルネーム）	固有名詞（呼捨て名前、人名＋親族名詞）

<sup>15</sup> ベトナム語では、“này”（「この」），“kia”（「その」），“ấy”（「あの／その」）という指示詞体系が或る。但し、語用論的に、ベトナム語の指示詞は日本語の指示詞と異なる場合もある。この問題について、別稿で言及する。また、ベトナム語の指示詞体系について、Nguyen Phu Phong（2002）を参照されたい。



地位・職業・役割を表す名詞 親族名詞（上位親族名詞、指示詞を含まない 虚構的表現） 人称代名詞 <sup>16</sup>	接頭辞が付く地位・職業・役割を表す名詞 親族名詞（上位親族名詞、指示詞を含まない 虚構的表現を除く） 人称代名詞
--	---

#### 4. 呼称表現の主観性と“bởi”受動文の成立

本節では、呼称表現の主観性と“bởi”受動文の成立について見る。以下でみるように、客観的表現の名詞は客観的表現の名詞および無生名詞、動物と組み合わせれば、“bởi”受動文が成立する。しかし、主観的表現が出現すれば、“bởi”受動文が成り立たない。

まずは、“bởi”受動文が成立する客観的表現である場合を見てみる。次の(10)から(13)までは、文における有生名詞はすべて客観的表現であるため、受動文bは自然である。

(10) (11)の旧主語と目的語の組み合わせはフルネーム（ゲン・ティ・ロアン）と役割（学生）、職業（警察）と上位親族名詞（御主人達）である。

- (10) a. Nguyễn Thị Loan đã cứu hai học sinh.  
ゲン・ティ・ロアン PRF 救う 二人 学生  
(ゲン・ティ・ロアンは二人の学生を救った。)
- b. Hai học sinh đã được cứu bởi Nguyễn Thị Loan.  
二人 学生 PRF PASS 救う BY ゲン・ティ・ロアン  
(二人の学生はゲン・ティ・ロアンに救われた。)
- (11) a. Cảnh sát đã bắt các ông chồng.  
警察 PRF 捕まえる PL 祖父 夫  
(警察は夫を捕まえた。)
- b. Các ông chồng đã bị bắt bởi cảnh sát.  
PL 祖父 夫 PRF PASS 捕まえる BY 警察  
(夫達は警察に捕まえられた。)

(12) (13)までは有生名詞の所有者が出現する。(12)及び(13)の旧主語はフルネーム（ゲン・ヴァン・フン）、役割（泥棒）である。所有者は地位（大統領）、一人称代名詞（私達）である。

- (12) a. Nguyễn Văn Hùng đã tấn công xe của tổng thống.  
ゲン・ヴァン・フン ASP 攻撃 車 の 大統領  
(ゲン・ヴァン・フンが大統領の車を攻撃した。)
- b. Xe của tổng thống đã bị tấn công bởi Nguyễn Văn Hùng.

<sup>16</sup> 表1を参照されたい

車 の 大統領 ASP PASS 攻撃 BY ゲン・ヴァン・フン  
(大統領の車はゲン・ヴァン・フンに攻撃された。)

(13) a. Bọn cướp đã đốt làng của chúng tôi .

PL 強盗 ASP 放火 村 の CL 私

(強盗は私達の村に放火した。)

b. Làng của chúng tôi đã bị đốt bởi bọn cướp.

村 の CL 私 ASP PASS 放火 BY PL 強盗

(私達の村は強盗に放火された。)

つまり、旧主語も目的語も所有者も客観的表現であるため、“bởi”受動文が成り立つ。

これに対して、上記の例文の旧主語、目的語、所有者を主観的表現である名詞に置き換えると、“bởi”受動文が成り立たない。

以下の(14)から(17)までの旧主語、目的語、所有者を指示する名詞は(10)から(13)までの旧主語、目的語、所有者を指示する名詞の意味と変わらない。しかし、(14)および(15)では、旧主語は親族名詞から派生した接頭辞(姉)と名前(ロアン)から構成される名詞、軽蔑した態度を表す“tay”(手)という接頭辞が付いた役割(警察)である。

(14) a. Chị Loan đã cứu hai học sinh.

姉 ロアン PRF 救う 二人 学生

(ロアンお姉さんは二人の学生を救った。)

b. \* Hai học sinh đã được cứu bởi chị Loan.

二人 学生 PRF PASS 救う BY 姉 ロアン

(二人の学生はロアンお姉さんに救われた。)

(15) a. Mấy tay cảnh sát đã bắt các ông chồng.

PL 手 警察 PRF 捕まえる PL 祖父 夫

(警察は夫を捕まえた。)

b. \* Các ông chồng đã bị bắt bởi mấy tay cảnh sát.

PL 祖父 夫 PRF PASS 捕まえる BY PL 手 警察

(夫達は警察に捕まえられた。)

また、(16)及び(17)の所有者は親族名詞である接頭辞が付いている地位を表す名詞と、親しい関係を表す一人称代名詞である。これらの表現は発話者の態度を表す主観的表現である。

(16) a. Nguyễn Văn Hùng đã tấn công xe của ông tổng thống.

ゲン・ヴァン・フン ASP 攻撃 車 の 祖父 大統領

(ゲン・ヴァン・フンが大統領の車を攻撃した。)

- b. \* Xe của ông tổngthống đã bị tấn công bởi Nguyễn Văn Hùng.  
車 の 祖父 大統領 ASP PASS 攻撃 BY ゲン・ヴァン・フン  
(大統領の車はゲン・ヴァン・フンに攻撃された。)

- (17) a. Bọn cướp đã đốt làng của chúng tớ.

PL 強盗 ASP 燃やす 村 の CL 僕  
(強盗は私達の村を燃やした。)

- b. \* Làng của chúng tớ đã bị đốt bởi bọn cướp.

村 の CL 僕 ASP PASS 燃やす BY PL 強盗  
(私達の村は強盗に燃やされた。)

以上の(14)から(17)まででは、旧主語、目的語、所有者のいずれかに、主観的表現があるため、“bởi”受動文は全て成り立たない。

つまり、“bởi”受動文が成り立つ条件は有生名詞が発話者の態度を含まない客観的表現であることである。発話者の感情を含む主観的表現は“bởi”受動文の旧主語、主語、所有者にはならない。“bởi”受動文はこれらの客観的呼称表現からしか成り立たないため、客観的表現であると考えられる。

## 5. “bởi”受動文と受益表現

多くの先行研究では、ベトナム語の受動文は受益の表現であるとされている。本節では、“bởi”受動文は受益表現としての用法があるか否かを見てみる。

Nguyen Thanh Van (2005)によると、ベトナム語の“được”受動文は日本の「～テモラウ」と同様に、主語にあたる人の恩恵の気持ちを表す表現として使用される。

- (18) a. Bó mua nhiều quà cho tôi.

父 買う 沢山 お土産 に 私  
(父は私に沢山のお土産を買ってくれた。)

- b. Tôi được bó mua nhiều quà.

私 PASS 父 買う 沢山 お土産  
(私は父に沢山のお土産を買われた。)  
(私は父に沢山のお土産を買ってもらった。)

(Nguyen Thanh Van 2005)

村上(1997)は、ベトナム語では、基本的に「利害の受け取り」に関係があるものだけを「受け身」とみなす。村上(1997)は“được”は利益を表すと述べている。また、川口(2009)によると、ベトナム語の受動文は受益・被不利益表現であり、その中で、“được”は受益を表

す。つまり、先行研究から、ベトナム語の“được”受動文は日本語の「～テモラウ」と同様に、受益文としての用法があるといえるだろう。

益岡（1991）によると、「～テモラウ」受益文は主体に視点を置き、内面的な事象を描く主観的な表現である。受益表現としての“được”受動文も主観的表現だと考えられる。

まず（18）の恩恵を表す受動文は客観的表現である“bởi”受動文が成立しない。

(18) c. \*Tôi được mua nhiều quà bởi bố.

私 PASS 買う 沢山 お土産 BY 父

（私は父に沢山のお土産を買ってもらった。）

また、“bởi”受動文の成立には、旧主語と間接目的語が共起しないという制約がある。

(19) a. Giáo viên thông báo cho sinh viên về thủ tục nhập học. ((5)の再掲)

先生 通知する に 学生 について 手続き 入学

（先生は学生に入学の手続きを通知した。）

b. Thủ tục nhập học được thông báo bởi giáo viên.

手続き 入学 PASS 通知する BY 先生

（入学の手続きは先生によって通知された。）

c. \*Thủ tục nhập học được thông báo cho sinh viên bởi giáo viên.

手続き 入学 PASS 通知する に 学生 BY 先生

（入学の手続きは先生によって学生に通知された。）

d. \*Sinh viên được thông báo thủ tục nhập học bởi giáo viên.

学生 PASS 通知する 手続き 入学 BY 先生

（学生は先生に入学の手続きを通知された。）

(20) a. Công ty Hoang cung cấp loa BMB cho công ty Hồ Gươm.

会社 ホアン 提供する スピーカー に 会社 ホーグォム

（ホアン会社はホーグォム会社に BMB スピーカーを提供している。）

b. Loa BMB được cung cấp bởi công ty Hoang

スピーカー PASS 提供する BY 会社 ホアン

（BMB スピーカーはホアン会社に提供されている。）

c. \*Loa BMB được cung cấp cho công ty Hồ Gươm bởi công ty Hoang.

スピーカー PASS 提供する に 会社 ホーグォム BY 会社 ホアン

（BMB スピーカーがホアン会社によってホーグォム会社に提供されている。）

d. \*Công ty Hồ Gươm được cung cấp loa BMB bởi công ty Hoang.

会社 ホーグォム PASS 提供する スピーカー BY 会社 ホアン

（ホーグォム会社はホアン会社に BMB スピーカーを提供されている。）

(19) 及び (20) では、b、c、d は同じ動詞から成り立つ受動文である。b は旧主語（先生）（ホアン会社）と間接目的語（学生）（ホーグォム会社）が同時に現れないため、成り立つが、c 及び d は、この旧主語と目的語が同時に現れるため、非文になる。

授受動詞及び三項の発話の動詞から成り立つ文では、間接目的語を前置詞“cho”でマークする。“cho”は元々“cho”（あげる）という授受動詞から派生した前置詞であるため、間接目的語が受益者であるという意味を表す。したがって、これらの動詞から成り立つ受動文は、利益を与える旧主語と受益者である間接目的語が同時に現れると、受益表現になる。利益を与える主語と受益者である間接目的語が共起しないという制約を受ける。

このことから、“bôi”受動文は“bị/được”受動文と異なり、受益表現としての用法がないと考えられる。なぜ、“bôi”受動文は受益表現の用法がないかということ、“bôi”受動文は客観的表現からである。

## 6. まとめ

本稿では、ベトナム語の“bôi”受動文の客観性を考察した。結果として、客観的呼称表現しか“bôi”受動文に現れないことがわかった。したがって、“bôi”受動文は客観的表現であると言える。そのため、“bôi”受動文は“bị/được”受動文とは異なり、受益文として使用されずに、利益を与える主語と受益である間接目的語が共起しないのである。

但し、客観的・主観的呼称表現を判断する基準をさらに明確にする必要があると考えられる。これを今後の課題とする。

### 【参考文献】

- 宇根祥夫(1983)「ベトナム語の受身」『東京外国語大学論集』33, pp. 63-72, 東京外国語大学
- 川口健一(2009)「ベトナム語の受身文」『語学研究所論集』(Journal of the Institute of Language Research) 14, pp.211-215, 東京外国語大学語学研究所
- 桑原政則(1989)「ベトナム語の親族名称体系」『東京国際大学論叢. 教養学部編』39, pp.103-113, 東京国際大学
- 谷守正寛(1999)「日本語・ベトナム語・タイ語の受身対照比較:間接受身文を中心に」『鳥取大学教育地域科学部紀要. 教育・人文科学』1(1), pp.293-302, 鳥取大学
- 富田健次(1988)『ベトナム語の基礎知識』大学書林
- 益岡隆志(1991)「受動表現と主観性」『モダリティの文法』くろしお出版, pp.191-207.
- 村上雄太郎(1997)「受け身と利害の表現—日本語とベトナム語との対照を試みて—」『神戸市外国語大学外国語研究』39, pp.81-100. 神戸市外国語大学
- Nguyen Thanh Van (2005)「ベトナム人日本語学習者の受動文の誤用分析—受動文に関する説明書の作成を目指して—」『日本言語文化研究会論集』1, pp.177-199. 日本言語文化研究会
- Pham Thi Thu Ha (2007)「ベトナム語・日本語における受動文の対象研究」『ハノイ国家大学外国語大学の日本語学・日本語教育国際シンポジウム論文集』ハノイ国家大学出版, pp.96-103.

- Vu Minh Hien (2008) 「日本語とベトナム語における虚構的な「呼びかけ」について—若者の「呼びかけ」を中心として—」『ハノイ大学日本語教育開始 35 周年記念国際シンポジウム論文集』ハノイ大学出版, pp.281-286.
- Vu Thi Thu Thao (2009) 「日本語とベトナム語の自称詞と対称詞に関する比較—人称代名詞と親族名称を中心に」『大阪大学言語文化学』18, pp.183-19. 大阪大学言語文化学会
- Nguyen Hong Con & Bui Thi Dien (2004) *Dạng bị động và vấn đề câu bị động trong tiếng Việt*(ベトナム語の受動態及び受動文の問題), *Tạp chí Ngôn ngữ* (言語学誌), 7, pp.1-13. Viện Ngôn ngữ học (言語研究所)
- Nguyen Kim Than (1977) *Động từ trong tiếng Việt*(ベトナム語の動詞), Nhà xuất bản khoa học xã hội (社会科学出版社)
- Nguyễn Phú Phong (2002) *Những vấn đề ngữ pháp tiếng Việt – Loại từ và chỉ thị từ* (ベトナム語の文法の問題—類別詞及び指示詞—), Nhà xuất bản đại học Quốc Gia Hà Nội (ハノイ国家大学出版社)
- Panfilov.V.S (1993) *Cơ cấu ngữ pháp tiếng Việt* (ベトナム語の文法の構造), (Dịch: Nguyễn Thùy Minh (グエン・ツイ・ミン [訳]), Nhà xuất bản giáo dục (教育訓練省の出版社)